



こんな本も読んでみましょう

選者：川崎市立西有馬小学校 教諭 福山 里加

アンデルセン童話

「おやゆびひめ」

花から生まれたおやゆびひめ

おやゆびぐらい小さな女の子が花から生まれてきました。かえるにさらわれたり、ねずみにたすけてもらったり、たくさんの生きものに会いながらすごします。もぐらとけっこんするひ、たすけてあげたつばめが、めのまえにあらわれました。おやゆびひめは、どうするでしょうか・・・？

アンデルセン童話

「マッチうりのしょう女」

マッチに火をつけてあらわれたものは？

一年のおわりの日、一人のしょう女がマッチをうっていました。しかし、かってくれる人はあらわれず、しょう女はいえにかえることができません。さむくてしにそうなしょう女は、マッチを1本とって火をつけてみることにしました。すると、ふしぎなものがあらわれて・・・。

アンデルセン童話

「もみの木」

ねがいをかなえたもみの木がわかったこと

「はやく大きくなってクリスマスツリーになりたいな」とおもいつけたもみの木がいました。お日さまやかぜは、「ここですごすことをたのしもう」といいますが、もみの木はいみがわかりません。やがて、ねがいがかなってクリスマスツリーになったもみの木は、あることに気がつきます。

イギリスの昔話

「三びきの子ぶた」

おおかみをちえでやっつけるぞ！

3人きょうだいの子ぶたは、それぞれ家をつくりました。いちばん上の子ぶたはわらで、2ばんめの子ぶたは木で、3ばんめの子ぶたはれんがをつかってつくりました。そこへ、おおかみがやってきました。さて、どうなるのでしょうか！？